

古在由重 ふるいよしひら 哲學者。明治二十四年五月十七日東京生れ、平成二十二年二月八日歿（一九〇一—一九〇一）。農藝化學者古在由直の次男。大正十四年東京帝國大學文藝部哲學科卒。昭和七年戸坂潤等と唯物論研究会創設に參劃、翌年及び十二年治安維持法違反で檢擧。戰後民主主義科學者協會哲學部會の中心として活動。各大学大專教授。『古在由重著作集』全六卷（昭和四十年—四十二年勁草書房刊）がある。

譯著書、パウホ著『カントと現代の哲學的課題』（譯、昭和二十一年十一月、二十日岩波書店「哲學論叢」）、フオーレル『インデス』著、西洋哲學史』全二冊（共譯、昭和四年五月、二十日—十年九月十五日岩波書店）、『思想の進路』（昭和二十二年八月、二十日伊藤書店「人民群書」）、

『現代觀念論批判』（合著・松村一人編、昭和二十二年一月、二十日チウカ社）、『願うヒューマンニスト—近代日本の革命的人間像』（合著・學生書房編集部編、昭和二十二年四月、二十五日、再刊、二十四年十月三十一日學生書房）、『現代ヒューマンイズム』（合著・森宏一編、

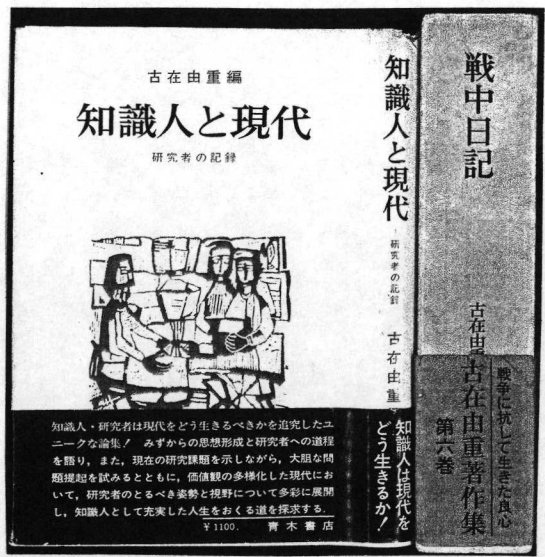
昭和二十二年五月一日チウカ社）、『哲學教室』（合著、二十世紀研究所編、昭和二十二年九月二十日啓示社）、『回想の戸坂潤—附年譜』（合著・三）書房編集部編、昭和二十二年十月二十五日京都・三）書房）、『哲學の現代史』（編、昭和二十四年四月十日文化評論社）、

『偉大なる愛情—尾崎秀實・松本慎一の回想』（編江邑一共編、昭和二十四年九月、二十日育生社弘道閣）、『インデクス』著、ロドイツ・インデス



ロギー』（譯、昭和二十一年一月、二十日岩波書店）
「岩波文庫」）、『光を掲げた人々—民主主義者の思想と生涯』（合著、昭和二十一年二月二十日新報社

版社）、『わが友』（合著、昭和二十二年八月、二十五日・九月六日の二種、東京出版株式会社）、『哲学』（粟田賢二共編、昭和二十二年十月十日岩波書店「岩波小辞典」）、『思想とはなにか』（昭和二十五年九月、二十日岩波書店「岩波新書」）、『人間讃歌』（昭和四十九年一月、二十日岩波書店）、『知識人と現代（研究者の記録）』（編、昭和五十一年一月一日青木書店）、『思ひだすことと忘れえぬこと』（右遠俊郎対話、昭和五十六年八月、二十日同時代社）、『草の根はどよめく』（昭和五十七年五月、二十日築地書館）、『和魂論』、『ト』（昭和五十九年六月八日岩波書店）等。



古在由重 編
知識人と現代
 研究者の記録



知識人・研究者は現代をどう生きるべきかを追究したユニークな論集。みずからの思想形成と研究者への道程を語り、また、現在の研究課題を示しながら、大膽な問題提起を試みる。ともに、価値観の多様化した現代において、研究者のとるべき姿勢と視野について多彩に展開し、知識人として充実した人生をおくる道を探求する。
 ¥1100 青木書店

知識人と現代

研究者の記録
 古在由重

知識人は現代を
 どう生きるか？

戦中日記

古在由重 著
 第六巻